

一般社団法人日本医療薬学会
第2回 臨床研究セミナー 『連携して臨床研究を進めよう』

研究推進委員会では、臨床研究活動を実践するためのノウハウを向上させ、医療薬学の進歩発展を図ることを目的に、臨床研究セミナーを企画しています。

第2回臨床研究セミナーでは、第1回臨床研究セミナー『臨床研究を始めよう』で頂いた意見を基に、薬局や一般病院の薬剤師が大学等と連携しながら研究を進めていくために必要な Tips について紹介して頂きます。各種専門薬剤師を取得するためにも学術要件が必要で、研究は薬剤師の活力にもなります。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 2022年4月17日(日) 13:00~17:00 |
| 開催方法 | ハイブリッド開催(事前参加登録必要)(オンデマンド配信はありません) 現地会場「大崎ブライトコアホール」(https://osaki-hall.jp/) *詳細はHPにてご確認ください。 |
| 主催 | 一般社団法人日本医療薬学会 研究推進委員会 |
| 対象 | 薬剤師、大学教員、薬学生、その他 |
| 参加費 | 本学会会員 正会員 4,000円 学生会員 無料 一般 社会人 6,000円 学生 2,000円 |

〈プログラム〉 司会：鈴木 貴明(千葉大学医学部附属病院薬剤部)
開会挨拶(13:00~) 武田 泰生(鹿児島大学病院薬剤部)

基調講演1(13:05~13:45) 座長 篠原 久仁子(恵比寿ファーマシー/フローラ薬局)
尾関 佳代子(愛知学院大学薬学部 准教授)
「薬局から発信する研究-日常業務の疑問をどのように研究に活かすか?」

基調講演2(13:45~14:25) 座長 菅原 満(北海道大学大学院薬学研究院)
矢野 義孝(京都薬科大学臨床薬学教育研究センター 教授)
「医療の場で考える研究計画と解析計画」
休憩(10分)

特別講演(14:35~15:25) 座長 池田 龍二(宮崎大学医学部附属病院薬剤部)
板井 孝吉郎(宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部 部長/宮崎大学医学部社会医学講座
生命医療倫理学分野 教授)
「“倫理的な研究”ってどんな研究?-実践に活かす「臨床倫理」と「研究倫理」の考え方-」
休憩(10分)

シンポジウム「連携研究を進める~はじめの一步と次の一步~」(15:35~16:55)
座長 鈴木 小夜(慶應大学薬学部)、中村 任(大阪医科薬科大学薬学部)

- 堀 智貴(奈良県総合医療センター薬剤部/神戸大学大学院医学研究科) 15:35-15:55
「私が社会人大学院に入った理由~臨床研究のイロハを求めて」
- 在間 優衣(公立学校共済組合中国中央病院薬剤部) 15:55-16:15
「PBPM 構築から論文投稿に至るまで」
- 河内 明夫(富高薬局) 16:15-16:35
「薬局での POCT 機器活用に基づく医師と患者をつなぐ健康サポート」
- 総合討論(16:35-16:55)

閉会挨拶(16:55~17:00) 矢野 育子(神戸大学医学部附属病院薬剤部)

認定単位：日本医療薬学会各専門薬剤師制度クレジット(5単位) 予定

日本医療薬学会 第2回臨床研究セミナー 開催報告書

臨床研究推進委員会 委員長 矢野育子

第2回臨床研究セミナー『連携して臨床研究を進めよう』を2022年4月17日(日)にハイブリッド開催(現地会場:大崎ブライトコアホール)しました。

本セミナーでは、第1回臨床研究セミナー『臨床研究を始めよう』で参加者から頂いた意見を基に、薬局や一般病院の薬剤師が大学等と連携しながら研究を進めていくために必要なTipsについて紹介することを目的に企画しました。

特別講演では、板井孝壺郎先生(宮崎大学医学部生命・医療倫理学分野)「“倫理的な研究”ってどんな研究?—実践に活かす「臨床倫理」と「研究倫理」の考え方—」、基調講演1:尾関佳代子先生(愛知学院大学薬学部)「薬局から発信する研究—日常業務の疑問をどのように研究に活かすか?—」、基調講演2:矢野義孝先生(京都薬科大学)「医療の場で考える研究計画と解析計画」、シンポジウム「連携研究を進める～はじめの一步と次の一步～」では、堀 智貴先生、在間優衣先生、河内明夫先生の3名にご講演頂きました。人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の一部改正により、4月1日から一般病院や薬局でのオプトアウトによる診療情報の利用が認められなくなったことがセミナーでも話題になりました。また、薬局で行う研究の紹介やPBPMや新しい業務について連携しながら論文にまとめた講演など何も大変興味深い内容でした。

セミナーには268名の事前登録がありましたが、コロナ感染の影響を受けてか会場登録者は11名でありました。終了後のアンケートでは、3分の1は第1回に続いての参加で、病院と薬局からの参加者は2:1でした。基調講演、特別講演、シンポジウムともほぼ満足との回答で、今後もハイブリッドでの開催を希望する意見が多かったです。

反省点としては、ハイブリッド開催にしたにもかかわらず会場での参加が少なかったことや、参加者数が第1回よりも少なかったことなどが挙げられますが、今回も多くの方の自由記載の意見と継続して開催を希望する意見をいただきましたので、次回の企画に生かして頂きたいと思います。最後に、企画や当日の運営にご協力いただきました武田副会頭及び研究推進委員会委員、医療薬学会事務局の皆様にご感謝申し上げます。